



2006年 ベトナムでのゼミ旅行の様子

【この活動の概要】

主な活動	ゼミの海外研修旅行(ベトナム、中国)
実施時期	2006年～継続
参加者数	ベトナム・ホーチミン市ゼミ旅行(3泊4日) 2006年 19名、2007年 19名、2008年 5名、 2009年 16名 中国上海ゼミ旅行(3泊4日あるいは2泊3日) 2012年 7名、2013年 6名、2014年 13名、 2015年 6名

【先生に直接聞いてみました】

Q はじめられた経緯は？

A 海外旅行を経験している学生が予想以上に少ないことを知り驚いたというのがきっかけです。またマスメディアなどの外国についての情報がバイアスのかかったものになっているなかで、海外の状況を直接体験してもらいたいと思いました。特に日本と今後も重要な関係をもつと考えられる東アジアの国に行ってもらいたいと考え、この企画を立てました。

Q 活動内容は？

A 2006年～2009年は、ベトナムのホーチミン市に行きました。ホーチミン市では、統一会堂、歴史博物館などの見学を通して、ベトナム戦争の歴史を学ぶとともに、ホーチミン市経済大学の教員から、ベトナムの経済状況、日本との関係などについて講義をしていただきました。またベトナムの学生との交流も行いました。2011年～2015年は、中国の上海に行きました。上海では、浦東の金融センター、高層ビルなどを見学し、上海の経済発展についての知識を深めました。また上海交通大学安泰経済・管理学院の教員、上海関大会の方から、中国の経済発展、今後の経済状況の見通しなどについて講義をしていただきました。上海交通大学の学生と交流も行いました。

Q 本学の学生の反応はいかがですか。

A パスポートをはじめて取得した学生が、かなりの人数いました。つまり、彼らにとっては初めての海外旅行ということです。学生に海外に行くことの意味を理解させることができたと思っています。また、ベトナム、中国という学生があまり旅行していない国に行くことができ、その国の経済発展の状況、社会状況を感覚的に理解させることができました。

その他、学生からは以下のような意見を聞いています。

- ・マスメディアなどの海外についての報道がかなりバイアスのかかったものであること(たとえば中国についての報道)を知ることができた。
- ・現地の大学の教員から講義をしてもらったり、現地の大学の学生と交流することによって、海外の人々の考えていること、関心のあることを直接知ることができた。
- ・英語など外国語を勉強すること、外国人とコミュニケーションをとることの重要性を学生が実感した。
- ・上海関大会などと交流することによって、たくさんの関西大学の卒業生が海外で仕事をしていることを知ることができた。
- ・中国料理、ベトナム料理などの外国の料理を現地で食べることによって、日本との相違、食文化などについて学ぶことができた。
- ・上海では、中国の学生とコスプレパーティーを行い、アニメなどの日本の文化がどのように受容されているのかを知ることができた。

ゼミ旅行の様子がわかる写真をいくつかご紹介します。



2006年 ベトナム旅行



2007年 ベトナム旅行



2007年ベトナム旅行



2012年 上海旅行



2012年 上海旅行



2013年 上海旅行



2014年 上海旅行

Q 苦労された点は？

A ゼミ単位で行っていることですので、大学からの援助(費用、サポート)は特になく、現地での交流や講義



の準備なども私個人で行っています。友人の海外の大学教員、指導した留学生で帰国した方などに多大なご迷惑をかけているのが現状です。また、学生の英語能力は、現地の学生と交流するには心もとないのが実情です。パスポート取得や保険加入といった旅行に必要な手続きの経験が浅い学生が多く、時間がかかるのも悩みの種です。

Q プログラムの費用は？

A 学生の渡航費は、学生による自己負担です。私の渡航費は、ゼミ旅行補助として大学から一部補助されますが、それ以外は自己負担です。

Q 今後の展開は？

A 学部の正規の授業科目として、教育の一環として海外研修を行えたらと考えています。そのためには金銭面を含めた大学からのサポートが必要です。私とつながりのある海外の方々から多大な協力を得て行っていますが、彼らに頼りすぎることなく、大学からの協力を得ながら継続していくことができればありがたいです。

